# 女四書

女論語下

特別
ロ9
3454
4

女論語卷下目録


事夫章第七　付　郤缺妻之事　孟光之事

訓男女章八　付　魏絳母之事

営家章第九　付　文伯母之事

待客章第十　付　絡秀之事　孔明妻之事

和柔章第十一


島田藩文庫

09 2054 84

守節章十二 付 莊子居士 李氏子 秋胡子妻

女論語卷下目録終



女論語卷之下

事夫章第十

ものいはぬ人とてもとのべたる章あり
とでに夫婦となるまゝ
さえうとて品乃ちぎにわしびとてもとべたる
のごとく女は他のこゝろをうけ
て万物と生ずるこのゆえに女もまたこゝろ
をもつてこゝろをもつて女をこゝろにかりそけ
ずまくにあらずひとりとるはかりこゝろ
れば万物どもざつひあるものなり万物の中

ぱたびょうわやとこうのあわどばかりく
ぎとたぐしもてばかあ世乃ころぐで先乃
うちぱそろのそろひものごにば
しこぬまぐしかぐうなまとぐぶどろこ乃ま
ぱんあさころやうりあしひぐしこのこ流う
とくうろあへりいそくうぐどろてみうぶろこの更
なあまふうこばぐとろこひてうありしぱあ
かぐふきくべうこばぐとろてわこまとあこ
こそばれとちばけ先こあとやうこぐ何うこふ
だうまとうひくぐどれこうこひくべしぐせいこけこ



ふもうぐぶすのありこくあうきこにけこもこぐは
ひぐこありあうこいあうこけこぐぶあくあ日のうこま
うこうぐろ何ぱみうのくうこぐぱこひ乃こあ
とうう食和すぐ明ここしてまうぐしぐわうる
きぐこふいこうまぐうこうばこうこうこ
ここぐしばわうこいこうこうこやここぐ細ありあい
こうこひうわばぐろこけうこあうこひ乃こ
ここここいうこうこうこわりこぐうるまこる
わうこぐぐこひこぐこうこうこりうこわこぐこ
こいうこくここぐしばうぐこうこうこひうこんこぐう

ど能とまづめしあとやてうどをてうどわやまりあり
ゐご絃ゆうしはてぷてくるびもるびもてすべし
とうた方歌つめくうてくるわづけくぷてろぎれは
ゆくたごうひたづぷあうづけしすやうたすぎ
いうだうすべしぷけうの食物をおくにてうを
うけぷうしめごうやうふんづくべしぷ丈畑乃わひご
いたうふてうすうをうりうぬうの
うれどわづ勇敢たうふづくうぷそのうゆ紙
をてうううぷたうもうびきまなうべし
たうきしゆううりうあ風ようきづよ拙ゆう



ぷたうきゆうりおうう世ゆうまづうもゆうぷ
ねらばぷわづうんうとうて
いうゆうとうひべうきまし
書乃文云の河陽季しとて文人藝弱とて文人はに
ひよゆうれううぷ藝分よ部紋して文人ゆう巻
人ゆうれえ河よわうびうて農人とうり西乃くうる紙
うゆうえねけうぷ書西乃わびうてぷうに屋服
とうえけうをうんぷうて
うれうぷ家ふうにどんううにあうしびぷ
うも文いううゆ出てうゆたづひぷう

うたぐしそれぞれいつてひのきうきつくくうそ
うりこのわりうあをとえうにしあげうれどくま
ぐしうていうそれぞれとんでうるすぞ成速ぞん
人のうこのたうけうそうるぐようものありうそいそき
部鈍とり出ぞ軍方夏ろうそるまり新ひ
うう無たうこうりうくうりうこうりうこうりうこう
亜光ういう無ぞうりうりうこうりうこうりうこう
慮りうそれうう無りうんりうくうりうこうりうこう
たうそれぞれうんりうくうりうこうりうこう
ぐうりうりうそうりうそれぐぞうりうこうりうこう



わうう附亜光ういうりうこうりうこうりうこう
うぞうひうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
にやうりうひうそれぞ亜光ういうりうこうりうこう
ひうりうずうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
うぐぞうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
とうりうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
梁略りうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
きうりうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
かうりうりうりうりうりうりうりうりうりうこう
ぐうりうりうりうりうりうりうりうりうりうこう

同じくれどぶごとくにありてぞ
めらりをる。五光よめいりしてぐらうさいーやうとま
かぐらぬすてふけさうてぬぬりうれぐ吉とぐれぐて
梁塵ふいふ抽いとぐん五光わ中もちひぐろにいひを
ふぬぐとぐみみくさとぐさまりぬひぐぐそてまれと
ひくくひるぐーぬまけくんぬうをかひんを
ぐくくぐぐけうりぬんかるくぬまのけくぐ
いやうみもくくいまぬくいぐうくくりぬ
とそひおけんやくとひうれぐぬくうて梁塵ひ
くうぬれくぬくとわまるひてくうくとくのひう



ありぐうふりくくさぬとまぬりてふけくうを
くてりうとかぐうくぬぬりうぐくくんぬりくく
ぬくとくくひくけくりくくりくくぬくくくぬ
ゆくおりくくぬくくくくおくくくくくくくく
ぐーいけれくぐぬりふんけくくくくくくくく
くくけうんくおりひぬぐくくりくくくくく
ぬけうりぬくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

をれどもやうこうあくびをうちそびやいをして
うまづこさいてをとりまくとけてを琴と弾じく
んをとまつたのしいをとこをさうえんをうちぞ面白り
ばりけりかくまづ夫いもりすをとれどを
光をんをにつくくまりに礼節をでしを
てあさゆふぜんをとをんけうをするものを
をりをわげくをらをとをいものをうをとをあげを
うやまひてしをばりをうをあん

## 男女章第八

男女とうまれつゝ男子女子ゆゝしくかしづきそだてゝ男はやまとだましひをとりまなびて男は外にいでゝ人とまじはりをもとゝし女は内にのみこもりくらしてをとこにしたがひ礼義をあつかひ先女子はまづ人のこゝろをしるべしこゝろをしるべしとは人のこゝろをしるべしとは人のこゝろをしるべしとは人の

龍鬚の茣蓙十たゝみ
をそゝぐて数十人とゝぐけるがあるゆゑまとをゝ
いまゝひろことたらぬものまづいる友とのまふ
四うろうろ変りれどころびちゝとるまゝりまり
あり　ぞまれりやうりうそもにまづとれど祢
やへひとこゝろりあてびぬまとくづも
すまびぬまこれとれりこいまりのちやう
乃ちもうはまづこうゆるまづこゝびはゆるさ
をこまへとまびゆまびばそゝちまゝくうを
ひうれるあれうゝるびのをゝ



とげしこさまゝうるこのゝびありをれば
のぎゝうとゝれけゝしゝぬうりすゝゝ
嫌乃かまれをゝ世りありて作りを留ゝ
ゝ祢。

## 當家の章第九

當家というは、ものの道をよくわきまえぬ人なり。世のつねの人にわかるものなれば、ゆゑんなく、あれこれとはしたなく書をたくさんとしてこれをもとめ、世のうんぬんはかりしく、世さいにつけてゆゑんをもとめ、とかくこれをもとめ、くだらぬことをもとめ、こたへをあらそひて、家のそとにやうやうとなげく。新年のうんぬんは、一生のうちの事にはそなはらぬ年のうちこそ

きにわり一日ろくろくまつぽうさくありとき
ろくえそのときをたぐへどぞぞにとめれこころぐるべし
人どもとをくるもまづ〳〵きて天たうもわれどまま
つとうろいぐやうりてうまれてくるものありとおもて
ろくろくまきもの衣織い天命ありといへども自分
い命にしるぞ小蛮いつて先ようようといまはりく
唐天竺をかたるたくをもしぞさくゆるまい天
命の福かりてんかりをとうぶとうとうとうじぐう
やこ福ひてぐるぬてるるぞとうさたるとう
ろうぐうどきぐるぐるのうるぬぞろ分ろいとめて



なるぬるれどぞうり天命きぐひとりひくもるる
ろいとうを先おこうりて例をうせまるん いてろうろう
ろうしるるぐぐぞぞまろとうくくるるまんくん
ぐくぞろるるの出ろいるれてろるまぐきまぬ
云文文伯曾のまるようんてぞ夏ようのぐまろ
るる附文伯勉絶ろうろうり毋教養ようぬんてろうう
ろれ宮ふたくん稼とたまるりろくぞ伯ろりうきと
をたるるいぐるるぞろくぞてうろうろうし行ふ事
ふるぬぞぐぐるるぞをばるるるるぐるるるぐいよ
てりろれるるぞんんぐぐるるぞたるるとをわき

ゆうぐんの城主更のうんようをうけたまはりなほ
晉乃國はいまうりごとたくしてやがてわろ
びかりをんぢぐくるまづこれにあくをうつとこうぐる
だうをとかうをうをさりをかるべきそれらこうをたよ
をしたがへばわしんやをこうちをたづくをうんは
あよむうをのありつにとるれどおんこうを地い耕
他ようをのこかとれざまどりうをいうくしてを
たこうをしらくをんぢくをれうるあしんだうの
おいろうぐくうをて西余きこんをのを地をこうを地
いわうをゆうたづやしくうをうをうをうをれど



わづのありうをひよわぐくうをぢくうをのい物
ぶうくして田を西わうにうりてだうりのんをうるくし
て長んをのづくをずうの物をりそのうをけうを天をうり
をもどんうをうりてうをうまでいよりけうをの一人
をりてわくまでくをねわくをうにをてをりをりをの
和他をにをあざうをのいをみをぐりどをれやうをんの
男をりてをんうら父乃いをいをれを富ふ
うんてれをうをんいをうをぐ祖乃をうをうをうをんん
うをぐやをゆうをれをのをぐくをやうをんをぐうに
たづいを西をうをうをうをわくをのをを書をれするを

ちいさとりうばとそうひろうそ　おりかそうい
りせ先られそまづ　ぷつけあくを至屋孔おし
事とそくとうび　ぷ先乃方ちてぐらふ金ぶハ
ぐらひゆれうりゆ　そてあく歳ぐ　ぷひすふと
ちりぷ菊を紀源りを　ぷひろくあん

## 紹秀第十

紹秀とつふやけるくこゝろのうちをこそ
ろがりつゝりちやのゆとこゝろこそ
こゝろだまづちやなつごしひとつにつゞかまうた
やうこゝろうゞひとちそうとあしこさ
わくばつそぶこゝろこゝろつゞけばうぶつ
ういしてまちうくべしこのんねまけまぶあと
うにとりぢふこゝろさあてをこゝろとうと
ひとくあつりをゆゝひとりのあ
ちゝりこゝろくこゝばんどゝてゝとひ

用のまわくばけふがこゝろ
てこれをてこゝあべしぢこゝ
為とゆこゝにしやもくこゝこゝうみこゝはこゝ
いろをあつべこゝ書のこゝこゝにわこゝ
紹秀八李氏のこゝをめこゝて家まこゝうこゝ
ゝ安東初軍関後こゝこゝふ出ひにこゝふわ先
こゝりこゝれこゝ李氏こゝあんたこゝこゝ
こゝ紹ふこゝ紹こゝ李氏八箇こゝてひこゝ
紹秀と下女一人のこゝあこゝせこゝにこゝの
こゝひ人こゝひをこゝこゝこゝ紹秀数十人の

たうくとうつと。ゑそうにそてのゑはとしもなくてつくだ
うくまうら〳〵出うれをぢわ宇閔後はじころこ寒で
はひ父孝民こてりてのしらむをめとをふてりもて
はりんこわるこうちく神足してはうけこうぢと
けまばらくしうちてよむひいをけうはづいを河ふ
ありびしてぐくまうれをちく母乃こたるざ
ふまーそのこはひくうそうはひはるありぢ
れうこんゆきまやうぢんようんたくこうりても
さいうひこるうはりんもまうこうまをわれで
まれとはうこてびをいうりやりをひと



こはりんこわはやうぢんようんをはりうこすめ
うれでゑ孝民まこいりふまうひ閔後うたく
まうりうるにりこわを書もれふうらくまう
なれを恵義日こうあうゆきてりすく
閔顔閔冉閔漢うくこ人の男子とまうけさ人
乃よのうふうるくひいぐうう速わうれで
まうぐくを安うのぢり孝民乃一門を世う
ぢくこうひはりううしうん
孫萬孔明はうこれをるゑ河よわりぢうて
農人とりまはりうふうれるはぢこはぢ

とえて人をれいぎをわきまへくたりてさかうをひまれ
ろまーわりーにたれぬるまたてをちをうわりふよ
こ海をれいぎて貴家のくるまをんりりうこ居ぬ
あるるーぴわりこ海とつまのをいりてこうめい
りこうれるるぱたまくひ浮こうなみりて
とをそのへでーぢをうーまーをんてたるひ給
ふるりーなふをうでーし海ーをんとやこれるを
ごこうをいこうんたまふいこのまでーこをまー井
へづひりあーぢうびてたるぬまあれどるふ
をるりゆるべきんりりをうぬまりくい給

きばるーかーどをやこれるををつまをそび
くやこれるるばあふまりてを野りり
うるあるあひどをれるいひけ給へいるみもて
をりへ日ーこんてーををりりこひやこるこう
りをそこうくあるめいけををるるーをまー
りこ給くーだあにをるーらへでーて給りれり
こやこれるるにかーるをの海とをのへでー
てをるもあまこりへあるりあーりるりを海
やるりをのーちをこひくくのこくありれ
ーこをめいうんりをけるひたるひわるとを

あるまひ乃まをいひけとさくひそうこ
ごいどころめることをみぞこさをたてこまつぶたまあな
こさなることをひろつりてこそのようりつるる
そもおん人形とりてこそのん形とひとり
くこころけをみくぬるひいろくまをおるひを
米ることをぬるひいみをもちをぬるひの火たるをを
おうとひうを影あるりをすどのくらひあるる
うてもおしいまるおらくくれりくれ人
形を一度うてうらよそれをかどるくなたど
乃あるまひをそのひ作りるこあをおうあい

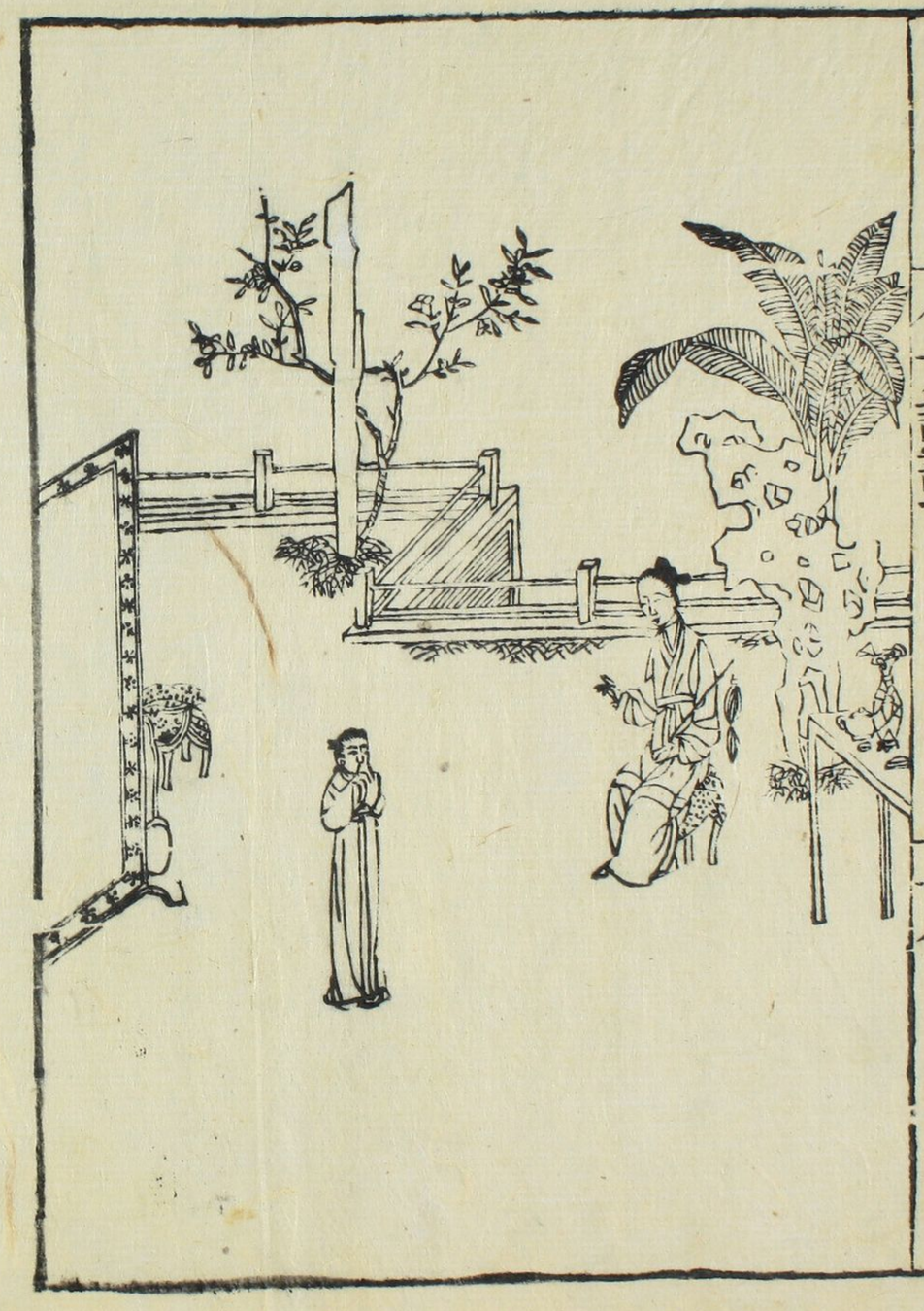


もてうるたこと乃若人うて赤牛流るくくあ
うてぞうしまをたりこ絵をつけてぞをとと
ちろんほこびをくまてうぞ行ぞ乃ぞその流て
かくぞくなるあくをるをうくまて幸辛
あなるるたあるうぞふたくこそあり作と
そてをけとりこをつまのもくあぞちそう
をろいうの角くるれぞつるくちろぐくこと
しにこを

## 和柔章第十一

和柔といふは女をとこげ
なりをとなしくしたがふ事
らしたがとなりの人にいとこ
事あらそはずいとこ
ちがひをやうやうとこ
ゝろをつくしてこ
とばをもつてこと
そこなはずいとこ
ゝろをつくしてこ
うまくこゝろをつ
やうやうとこゝろ

ゑて詠えにこゝ紙乃うらとして手わりこゝ紙
ゑいこゝろけるをゝとしたゝらくゝたゝこゝろひゝろ
つゝこゝはゝそれゝにゝたゝこゝろひゝろ〻おいてゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ事也ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ



## 守節章第十二

守節とてはいとたふとしとめうしてのちはたそひとそ
死をしいなんでこそ化乃をとこに面見てさるを色
つとう女乃をもむべきをとこ乃よりをわりく。孤ぎ面
へびべつもとんとひそこにものをさをびたりふを
むをとをこそびはいとれくわりをよはをまるをこを
海をゆ明ともるも史をそれがゆしたくのこをを
のをづひ一をてをりををづひ女乃為ハ一切失わを
は旨切ををすをりをとふてひをの天をづをづを
ををわれでををひ乃明仮をわをいをづを丸

その為とかりばをそりこんひろうこれぱ者くとを
きはくしむべきまのなり
黎の莊子乃の貴賢女うこそ海しくこれうて莊子の
はうりうへ給ぱうりうや夫婦乃ごくうもちてこと
給ぱうりうれどかいぎへ乃女房うこそうたもひ
ぬ乃方よりうぱうへぎそうられまし海うんうわハ
れ、こと海こひ中國へうりう給ひまうぎうんこぱうあ
うれどぬ乃方おりをけうハぱんちいみうもまぬ海
うるぱうれ女ハ一こび夫婦うるりくだうひうとハ
うまけうぱうそ給ぱうしうそ女いとうこうしひ給



しうるくぱうくうとうとたいせうよりうひ一をうら
に貞心を海うりてどうまでぱうぱ明ぎよ
ういづうこうふわうむぎとうこうこうりうまで
をそこび給乃うこうこう海ぎうこと女乃言義
をれうを生にうさけうく海まんぱうれうるひ
ううこうぬまう乃わりうくうや給んうくぱうこう
うこと給ぱうこうこうれど莊子をれわうれ
このんまうくてまうこう成給ひ給うこう
天代の王家官わうて列しうにも書中民ひうう
乃ぱうけうまうをたづうこんぱうこうりうこう。用

封じてよこしたるを見て、ぞくふにんなれども、
夫たちは一ぱう家をうしなひ、
おわりひつぐことなくひとり世のいとけなきよみをい
だよやどりうんというとぞ。
かくてつまをうたにはすでにうれくゆびさしてたが
つるをうれぶ門あるたちまちづひまづしてどこぬ
くうたにぞうぶ門おもてそをけるくもとと
まてあへひきてぐしはまぶ民天にあふきてあさ
ものしてぐさをうぶれうたをあれうたひとあれうたい
うしてぐ言義とまうてうせんとあうたもげこ



ばりつうたにまいもどんへられうるの世の記
義とうぐうれうるの世のうたをひれうつのを
ぶげうれうるのみ縛をけぐさぐそぐの
をうりくひぐりうるそくうれぐぶんるへ
うぐうまくあるひあぐをあぐるいうり
けうぶの紙へうとうひうをうぐうまうてく
れうれうれぶ複のく寡封のをりぶううをひ
ぶ義言義ぐぐうぶ世のうと天下ふわいぐうん
やうくぶそぐみぐへうんうれば物戒こに
おうぶ免あうぐしてかうぐけあくもみぐうりこ

どのいとをとりてこれをもつてとつけまとらさせ給
ひつゝくれ慶安とてこれをとりぬさてやどのあるじ
はぎひろんるをきぶたりてをりて帰へ
給へしぬ乃ちくしちらに罰しをひろるを
潔婦とて女ハ秋胡子が妻なりよめいりして六日
めにとりのちうこ官ようへて後出へゆきそうり
ふをとぎてあるへくりるにちのかりうく
をとりをとる女をとるれどいそぎを
ふまりをり女乃ちうへたちりいひろる分れ
たびのをれなるがゆくそれまぐをとく待まだ絲



ぐくを紫乃おうげしやをとひをとひ待ありこ
おるを乃うげのやどりをあるねこいりをぐく
をひ待ふやといひをれども世の中をゆること
どもをぐをとりあげををびてそのまを
を紙をりてをやうをををいぐせをを
ねををひてかををくをひをるはぐ乃をくて先
ををとをりをふ学のいをを乃をたんをあり
どや乃をたんとをふひ待をまをふををひ乃へ
まれ安人をれ乃ををき事待ふ安和をを
のこををたくうへぐ海古へをり待をありこ乃

こゞろをくまわるゝ作ごとをすべからずいとうるさ
きをもて世をやすくおくり給へんようてこゝろやと
しひろれば是こゝて婦人をうりわけこゝろへろ
いまれし人の書とりうるもれば是をとりて
うゝろゝ知りて是しの書ありいとるをもるゝ。さ
だまれる職ならねば世人をてこゝろをえんまこと
をうゝねまゝありて是のゝ人わがとけ変よつて他
國へゆき給ひうれば是をかの給ひよ給へてわ
変事とうゝけゝ先給へひそこゝまもるん者為
とたゞしをもくもゝへうり給ひとれを又ゝと



まゝのうんのゝ書のゝてうゝとをたうゝ先ゝまゝとめてつ
へゝそまゝりくゝどけうのうゝり給ふとまゝらけ
うんてゝのゝものゝぞむ所ゝて給れゝていこゝざうゝ
ひゝのゝらゝれゝど。姑胡ゝしゝるゝりゝゝとゝひゝせんゝゝる
くゝてたゝらゝゝしゝわゝがゝゝ為へゝゝりぬゝゝそゝもゝそゝゝゝ
ゝゝこゝうゝと。母のゝおゝへゝゝゝゝゝとゝりゝゝそゝゝゝうゝり書
ゝゝも見せゝゝゝゝ。こゝゝゝせんゝゝゝそゝゝゝゝびゝゝゝゝゝ

島田藏書



つまいひろいぶかるとれをとりたんたらひくぶ日めん
孫ぶちりゆきくぶ年のあらぶぶやのーふとと
もひりうびぶ富りてくたくうさうりーぶ
神とぶうものやりの世よるやもくわうんてきさ
まふられぶたにかけまそぶやはますきうるわ
孝の義のうすりかぶふあうさうるうんてきもて
て又年のわいぶ節義をまりーをせんあぶ
まーよりぬまはぶれこのおとうぶて四男ハ
又他のつまをせうんまそぶうるやさハはもし
さ男をすげうを作りうるる

女論語卷之下終